

2016年度中学教科書改訂とその後の動向について

株式会社 学書

2015/09/09

■2015・2016年度の改訂は、今後の学習指導要領改訂を見据えたもの

2015年に実施された小学教科書の改訂に続いて2016年度には**中学教科書の改訂実施**、そして2020年度の完全実施を見据えて**学習指導要領が改訂**されます。変化する一連の動きについて以下の通り記載致します。ご確認をお願いいたします。

新指導要領実施に向けた全体の流れ	教科書の動き・その他関連情報
2015年(H27) 中央教育審議会で議論	現行指導要領での 小学校教科書改訂(使用開始)
2016年(H28) <学習指導要領改訂> ⇒2020年度に向けた指針を確定	現行指導要領での 中学校教科書改訂(使用開始)
2017年(H29) 教科書会社が新(指)に基づく教科書を作成	随時発表される報道発表などによりますので、実際とは異なる可能性がございます。あらかじめご了承ください。
2018年(H30) 教科書検定	小学 2015年度版教科書を使用しながら一部先行実施＝移行措置 (小中学で「道徳」の教科化スタート)
2019年(H31) 教育委員会が教科書採択	中学 2016年度版教科書を使用しながら一部先行実施＝移行措置
2020年(H32) 新学習指導要領実施開始 ※2020年＝小学, 2021年＝中学, 2022年＝高校	高校 基礎学力テスト開始 (現中1・2生対象) 高校 学力評価テスト開始 (現中1生対象 ※センター試験廃止) (小学5・6年で「英語」の教科化スタート)

■現状の大学入試改革の中間案(概要)【出題形式や採点方法は未定】

中央教育審議会では新学習指導要領の改訂と並行して、現行の**大学入試センターを廃止し、新たに2つのテストを導入**することを柱とした大学入試改革が進められております。2017年度より実施されるプレテストの結果を踏まえてそれぞれ導入される予定です。

2019年度 高等学校基礎学力テスト(仮称)開始

・対象者 高校2・3年生が年2回受験可能(希望参加型とされる)

・教科 国語・数学・外国語(英語) ※2

・テスト形式 マークシートによる選択式が中心となる予定

※1 主として「知識・技能」を評価 → 既習内容の習熟度や到達度を図る狙い

※2 2022年度までは試行期間と位置付け(試行期間以後、地歴公民・理科を追加予定)

※3 2023年度以降 大学入試や就職へ活用を検討

2020年度 大学入学希望者学力評価テスト(仮称)開始

・対象者 高校3年生が年複数回受験可能

・教科 「教科型」、「合教科・科目型」、「総合型」の問題を組み合わせる出題

・テスト形式 開始当初は選択式と短文記述形式

※1 主として「思考力・判断力・表現力」を評価(「知識・技能」は単独評価しない)

※2 2024年度以降は文字数の多い記述問題形式やPCで解答するCBT(Computer Based Testing)形式を採用予定

※3 「数理探究」が高校の新科目になることに対応し、知識だけでなく思考力の評価をより重視

⑨ 2022年度高校新指導要領実施にともなう**新教科の導入**については、以下のものが現在報道などで取り上げられています。

「歴史総合」:近現代史を中心として、日本史と世界史をあわせた学習(歴史の転換点など) ※世界史必修は廃止

「地理総合」:環境、防災など、地域の課題の把握や問題解決に向けた思考力を養う

「公共」:政治参加、社会保障、雇用・契約など、社会参画に向けた学習(模擬選挙や消費者教育など)

「数理探究」:数学と理科の知識や技能を総合的に活用する課題探究 ※選択科目としての導入

■2016年度中学校教科書改訂について

2016年度は中学教科書の改訂が実施され、新しい教科書が学校現場で使用されるようになります。

市町村によっては採択教科書も変更となるため、2016年度春に向けて、学習塾様における採用教材(準拠ワーク)も見直しが必要となります。各地区の「新教科書・地区別採択一覧」に関しましては、当社HP(<http://www.gakusho.com> 内 会員専用ページ)をご確認願います。(「新教科書・地区別採択一覧」は9月下旬より随時更新UP致します。)

【採択に関する留意事項】2016、2017年度は英語科と社会科で教科書の給与形態が異なる場合があります。

【英語】

- ① 採択変更が無い場合 : 従来通りの採択の新教科書が配布されます。
- ② 採択が変更される場合 : 以下の通り、変則的な教科書の切り替えが行われます。
- | | | |
|--------------|---------------------|--------------------------|
| 2016年度 新1年 | …2016年度採択(新採択)の新教科書 | 新2・3年…2015年度採択(旧採択)の新教科書 |
| 2017年度 新1・2年 | …2016年度採択の新教科書 | 新3年…2015年度採択の新教科書 |
| 2018年度 新1～3年 | …2016年度採択の新教科書 | |

【社会】

2016年度は、新2年生への新教科書(地理・歴史)の配布はありません。→新2年生は2015年度配布の教科書を使用します。

■2016年度中学教科書改訂のポイント

英語 「読む・書く・聞く・話す」の4技能の習得がいつそうながされるよう、単元構成の見直し

⇒Point! 教科書によって異なりますが、英語本文については3～5割程度の変更があります。一見して同一単元名のものもReadingの文章内容が変更されていたりしますので、注意が必要です。全体の配列としては、たとえば東書で「Speaking Plus」を「Daily Scene」、「Multi Plus」を「Presentation」に、三省で「We're Talking」を「Let's Talk」に名称変更するなど、目次の構成からも4技能を意識していることがうかがえます。日頃からリスニングも含めたこまめな定期テストへの対策が必要です。

数学 ページ数の1割程度の増加と演習量の増加

⇒Point! 中1東京書籍を例に挙げると、今まで「円とおうぎ形」の単元内に入っていた「おうぎ形」の内容が独立した単元となるなど、単元によって、学習内容が増えているものがあります。方程式や資料の活用でも教科書によって演習量を増やしている傾向が見られますので、定期テスト対策でも考慮が必要です。

国語 読解作品の変更と単元順序の変更

⇒Point! 教科書によって異なりますが、物語文や説明文では平均して2～4作品程度の差し替えが行われています。詩・短歌・俳句の単元でも個々の取扱い作品に変更があります。三省の教科書では分冊がなくなった分、全体の素材点数は減っていますが、比較的作品の差し替え点数が多くなっています。新出漢字の学習時期も変わりますので、定期テストなどへの対応が必要です。

理科 ページ数が2割ほど増加、内容は細かい点での変更が多数

⇒Point! 教科書によっては2割ほどページ数が増加しており、その分が火山や津波、地震など自然災害の内容、防災教育などに充てられています。また、たとえば東書の教科書で「化学・生物・物理・地学」が「化学・生物・地学・物理」の掲載順になるなど単元順序の変更や、前回改訂で変更のあった「ブドウ糖などが2分子結びついたもの」という記述が「麦芽糖」になるなど、用語の変更・追加が複数みうけられます。理科については、こうした細かな変更点について確認しておく必要があります。

社会 地理では領土問題、歴史では近現代、公民ではコラムで内容が追加

⇒Point! 地理では領土問題として、北方領土、竹島に加え、尖閣諸島に関する記述が追加されたほか、帝国の教科書で「アジア・ヨーロッパ」の世界地理の内容が増えるなどの変更があります。歴史では、古代～中世にかけて学習内容を細分化する教科書(日本で文化の内容)や近現代の内容を増やした教科書があります。公民では環境保護、自然災害への対応、エネルギーなど日本が直面している問題がコラムとして扱われています。地理・歴史・公民それぞれの章末や単元末で単元内容を調べて発表するという構成がとられていますので、定期テストでは論述も含めた対策をする必要があります。

改訂版『New Basic』は、これらの改訂ポイントにもれなく対応しております